

「きちつとしたもの」を作ることに。煎茶湯のみを同じ形に作った経験、習慣は抜けませんので、寸法を測って大ききの揃った品物を作ります。寸法を気にしない大胆な仕事はできませんが、職人気質の私のこだわりです。

## 焼

き物は同じ釉薬でも焼き方や温度、土を変えることで色に変化が生まれます。同じ方法で制作しても違ったものができることがありますし、焼き物には方程式はありません。品物を作りつつ、試行錯誤を重ねながら新しい発見ができ、気に入るものが経験とともに、一つ二つと増えていけばと思っています。

**品** 物を対面販売する機会はあまりありませんが、市のイベントなどに参加し、お客さんと



▶人気の品『月白掛分ビアカップ』

会話をするのはとても楽しいです。手にとって品物を見ていただき、制作の模様や出来栄えについて話し合うことは、自分の感覚との相違に気付く良い勉強の機会となります。地域の保育所や小学校で陶芸教室をしたり、地域の祭りなどに参加したりすることも、大吉に暮らし、ものづくりをする私が生み出す品物に影響を与えてくれると思っています。

私は茶わん屋ですので、作るものは作品ではなく品物、商品です。日々の生活の中で使っていたことが私の喜びです。

家族が私の作った器に食べ物を盛り付けたとき、「おいしそうに見える」と言ってくれるとすごくうれしいです。また、品物を東山区の陶器店『ひの木』に置かせてもらっています。長元さんの品物よく売れている」と言われると制作意欲が沸いてきます。定番のものでも新たな試みを加え、少しずつ変化を付けることでたくさんの方に手に取ってもらえる工夫をしています。これからも使ってもらえる品物作りを続けていきたいです。

## 「ものづくり」の魅力を発信



南丹市長 佐々木 稔納

いよいよ今年は『国民文化祭京都2011』本番の年です。南丹市では昨年、NPO法人京都匠塾とタイアップして、ものづくりのまち南丹市をアピールし、国民文化祭に向けた機運の醸成を目的にマイ箸・マイ茶碗づくりキャンペーンやプレイベントとして南丹ものづくりの祭典を開催しました。

国民文化祭は、昭和61年に第1回大会が東京都で開催され、それ以降毎年全国の都道府県を巡回し、京都での開催は初めてとなります。皆さんが日ごろ行われているさまざまな文化・芸術活動を全国的な規模で発表し、それらを鑑賞する場となるもので、全国から

多くの「文化」や「人」が集まり、交流し、いろいろなものに出会える「国内最大の文化イベント」です。

10月29日から11月6日まで、府

内各地でさまざまなイベントが催される中、南丹市では「美術展『工芸』」想いを技に 暮らしに息づく用の美 工芸の祭典」を開催します。南丹市立文化博物館、国際交流会館、町家などを会場に、工芸の素晴らしさをお伝えできるよう、ものづくりに親しむ方々の工芸作品を全国から公募し、洗練された技が光る作品を展示するとともに入賞者を表彰します。

また、南丹市内に点在する手仕事の工房やお勧めスポットを掲載し、ものづくりとのふれあいや豊富な秋の恵みを広く紹介する「工房と里の秋めぐり『里の秋マップ』」を作成します。

全国から京都へ集まって来られる参加者や観客に、新たな創造と感動が与えられる南丹市ならではの「ものづくり」の魅力を発信したいと考えています。